

空港土木施設耐震設計要領

平成20年7月
(平成22年4月一部改訂)

国土交通省航空局

空港土木施設耐震設計要領

平成20年7月
(平成25年4月一部改訂)

国土交通省航空局

現 行	改 訂 (案)	備 考
<p>第3章 耐震性能の照査方法</p> <p>3.4 液状化の予測・判定</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>地盤の液状化の予測および判定は、一般に以下により行うこととしている。</p> <p>(1) 地盤が緩く詰まった飽和砂質土等の場合においては、地盤が液状化するか否かの予測および判定を行うこと。</p> <p>(2) 地盤が液状化するか否かの予測および判定は、粒度と標準貫入試験値または繰返し三軸試験を用いる等適切な方法によって行うこと。</p> </div> <p>(1) 液状化の予測・判定の対象とする土層は地表面（海面下では海底面）から深さ 20m 以浅とすることができる。ただし、20m 以深でもその層で液状化が発生した場合に構造物に重大な損傷が生じると判断される場合や、明らかに上部 20m 以浅の土層と連続する層であると判断される場合には、これらの層も含めて液状化の予測・判定を行う必要がある。</p> <p>(2) 液状化の予測・判定法には、粒度と N 値による方法と繰返し三軸試験結果を用いる方法の 2 種類がある。粒度と N 値による方法は簡易な方法で一般的に使用できるが、これによる予測・判定が困難な場合、より詳細な方法である繰返し三軸試験結果を用いるのが一般的であり、これら方法については、「埋立地の液状化対策ハンドブック（改訂版）」⁴⁾を参考とすることができる。</p>	<p>第3章 耐震性能の照査方法</p> <p>3.4 液状化の予測・判定</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>地盤の液状化の予測および判定は、一般に以下により行うこととしている。</p> <p>(1) 地盤が緩く詰まった飽和砂質土等の場合においては、地盤が液状化するか否かの予測および判定を行うこと。</p> <p>(2) 地盤が液状化するか否かの予測および判定は、粒度と標準貫入試験値または繰返し三軸試験を用いる等適切な方法によって行うこと。</p> </div> <p>(1) 液状化の予測・判定の対象とする土層は地表面（海面下では海底面）から深さ 20m 以浅とすることができる。ただし、20m 以深でもその層で液状化が発生した場合に構造物に重大な損傷が生じると判断される場合や、明らかに上部 20m 以浅の土層と連続する層であると判断される場合には、これらの層も含めて液状化の予測・判定を行う必要がある。</p> <p>(2) 液状化の予測・判定法には、粒度と N 値による方法と繰返し三軸試験結果を用いる方法の 2 種類がある。粒度と N 値による方法は簡易な方法で一般的に使用できるが、これによる予測・判定が困難な場合、より詳細な方法である繰返し三軸試験結果を用いるのが一般的であり、これら方法については、「<u>港湾の施設の技術上の基準・同解説</u>」および「埋立地の液状化対策ハンドブック（改訂版）」⁴⁾を参考とすることができる。</p>	<p>平成 24 年 8 月 29 日付けで「港湾の施設の技術上の基準・同解説」の当該部分が改訂され、その手法を空港の耐震設計に活用出来るよう改訂する。</p>